

現代水泳につながる江戸時代の水泳

Swimming of the Edo era which is tied to modern swimming

1K09B081

指導教員 主査 寒川 恒夫 先生

木幡 開

副査 瀬戸 邦弘 先生

【目的】

日本では、施設の充実、教育の後押し、競泳競技の活躍などを背景に、水泳は国民の間に人気のあるスポーツになっている。

この水泳の現況は、大正時代中期に輸入され今日に至っている欧米泳法を基に築かれてきたものだ。しかし、欧米泳法が入ってくる前は日本泳法という独自の水泳技術が普及していた。この水泳技術は現在伝統泳法として承継されているが、同時に、シンクロの選手がその足技を使うなど現代水泳に直接関連する部分もある。では、現代水泳に関わる日本泳法は、現代水泳の枠組みの中で、どのような位置を占めていると言えるだろうか。

そのような観点から、まず日本泳法が生まれた江戸時代に遡って、そこでどのような水泳が行われていたのかを調べる。次に、明治時代及び大正時代以後どのように水泳活動が推移したのかを調べ、日本泳法と現代水泳の関係を明らかにすることを本研究の目的とした。

【江戸時代の水泳】

民衆の泳ぎと武士の泳ぎに分けて調べた。民衆の泳ぎで興味深いのは海女の泳ぎである。葛飾北斎の描いた海女がクロールの登場する 60 年前の時期にクロール様の泳ぎをしているからだ。しかし、この泳ぎが泳法の進化に決定的な影響を及ぼすことはなかった。

一方、武士は各藩で武術の 1 つとして水泳を訓練した。藩主が水泳を奨励した藩では日本泳法の各流派が生まれ泳法が練磨された。現在、日本水泳連盟で 12 派を公認しているが、明治時代に成立した 1 派を除き全て江戸時代に起こったものである。泳ぎの特徴は、どんな状況下でもおぼれないことを目的としていてスピードを重視しないことなどである。各流派は、交流せず独自の泳法を発展させていった。津藩の観海流、和歌山藩の紀州三派では海の泳ぎとして平泳ぎを発達させた。熊本細川藩の小堀踏水術には他派に見られないバタ足を使う泳法がある。また、水戸藩の水府流水術にはスピードを出せる横体・抜手の泳法があり、明治時代に水府流太田派に引き継がれて水泳競技での主流の泳法になっていった。

【明治時代の水泳】

水泳が国民の間に広がり、水府流太田派を中心に流派泳法が競泳技術として開花していく状況を調べた。武家社会の幕引きと同時に、日本泳法各派の泳ぎはその対象者が武士から庶民や軍人に変

わった。小学校で夏季に水泳指導が行われ、高等学校では水泳部が創設されて各流派泳法が教えられた。大磯や横浜など各地で次々に海水浴場が開設されレジャーとしての水泳も広がった。

民衆への水泳の普及とともに、水泳競技も盛んになっていった。明治 31 年に横浜で初めての国際水泳競技が行われ、水府流太田派の片拔手一重伸がサイド・ストローク泳法の外国人チームに勝利した。明治 30 年代から 40 年代にかけて大学での水上大会、新聞社主催の海上長距離競泳などが行われ、明治 44 年には初めての全国競泳大会が開催された。水府流太田派の活躍が目立った。

【大正時代以降の水泳】

大正時代は競泳の泳法が欧米泳法に転換したエポック的な時代だ。水泳界の欧米泳法への対応を中心に調べた。この時代の前半は東アジアで日本泳法が圧勝してその優位性を国際的にも示した。しかし、中期になると大正 9 年のアントワープ夏季オリンピックで水府流太田派の泳法がクロールに完敗するなど、クロール泳法の優位性が明確となった。そのため、大正時代の後半は欧米泳法の研究・習得が熱心に行われた。結果は間もなく現れ、大正 13 年のパリオリンピックで入賞者 4 名、その次のアムステルダム大会でメダリスト 3 名、続くロサンゼルスとベルリン大会では多くのメダリストを出して水泳王国と呼ばれるまでになった。

【結論】

大正時代から昭和時代の初頭にかけて、短期間で欧米泳法を習得し世界の頂点まで上り詰めたのは、水泳関係者も指摘しているように日本泳法という長期にわたって磨き上げられてきた技術、その関係者の真摯な研究心があったからだ。しかし、現代水泳との関連で日本泳法の存在価値はそれだけに留まらない。

なぜなら、近代泳法導入前の競泳法だった日本泳法は競泳の歴史を創り、今日に至るまで一貫して自由形であり、また、その改変した泳ぎが近代泳法、現代競泳へとつながっていると捉えることができるからだ。更に、シンクロナイズド・スイミングや水球での立泳ぎを初め、臨海学校での流派泳法の採用、競技種目の OWS（オープンウォータースイミング）への日本泳法での参加などに見られるように、実際に現代の水泳で日本泳法が使われているからだ。

このように、日本泳法は伝統泳法として存在するだけではなく、現代水泳を成り立たせる上で重要な役割を果たしていると言える。